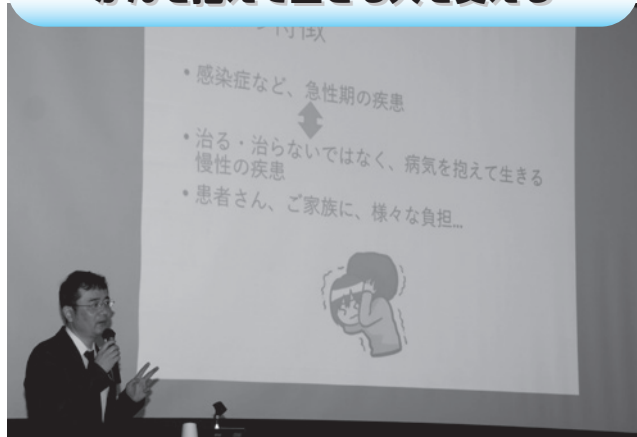


がんを抱えて生きる人を支える



8月17日(土)に町中央公民館 中ホールにおいて町在宅医療・介護連携推進協議会の主催で、在宅医療町民公開講座が開催され、「がんを抱えて生きることを支える緩和ケア」を演題として西濃厚生病院 緩和ケアセンター長の小田切拓也医師による講演が行われました。

「緩和ケア」とは、がんを抱えて生きる人を多職種で支える医療・ケアのことをいい、がんに伴う身体的・精神的・スピリチュアル・社会的な苦痛に寄り添い、身体と心のつらさを和らげます。参加者は、将来病状が悪くなった自分を想定し、どのような治療やケアを受けたいか考え、自分らしく生活を続けていくために重要な心構えについて、時折頷きながら聞いていました。

地域で祝う開館1周年



8月14日(水)に広幡ふれあいセンター開館1周年を記念するセレモニーが開催されました。同センターは、広幡地域自治町民会議の提案により運営を開始し、地域住民の交流の場や憩いの場となっています。

セレモニーでは加代雅楽さんによるパフォーマンスショー(写真)が披露されたほか、キッズコーナーとして金魚すくいやストラックアウトなどがあり、子どもたちを楽しませました。また、盆おどり大会や屋台の出店もあり、大人から子どもまで多くの地域住民が参加しました。「広幡はひとつ」のスローガンのとおり、地域がひとつとなってみんなで楽しみながら開館1周年を祝う素敵なセレモニーとなりました。

継続は力なり、生涯スポーツマン宣言



鳥取県で開催される第36回全国健康福祉祭とっとり大会(ねんりんピックはばたけ鳥取2024)において、ソフトテニスで出場する伊藤要一選手(写真左)と弓道で出場する水谷正美選手(写真右)の活躍を祈願し、9月2日(月)に激励会を開催しました。

川地憲元町長は「悔いのないよう、思い出に残る大会にしてください。県の代表、また町の代表として、大いに活躍されることを願っています」とエールを送りました。伊藤選手は「前回の大会では準優勝でした。今回は運も味方にして優勝したいです」と抱負を語り、水谷選手は「今回が初出場ですが、予選通過を目標に気持ちを強く持ち、硬くならないように臨みたい」と話しました。

岐阜県を剣道 日本一に



大阪府大阪市で開催される第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場する島田琉依選手(大垣西部 写真左)と加藤優志郎選手(志道館学園 写真中央右)が、9月6日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「二人のように町から全国大会に出場し、活躍するような選手を輩出することは町の誇りです。これからも精進し、多くの人に剣道の魅力を伝えていってください」と両選手を激励し、島田選手は「自分の役割をしっかりと果たし、全国大会優勝を目指して臨みたいです」と抱負を語り、加藤選手は「県代表として出場するという思いを強く持ち、大会に臨みたいです」と大会への思いを話しました。